

【記録】 令和5年度(2023年度) 第2回北海道拓北養護学校「学校運営協議会」

- 1 日 時 令和5年11月29日(水曜日) 10時00分～11時15分
- 2 場 所 北海道拓北養護学校 会議室
- 3 出席者 拓北興産社町内会 会長 菊池健一様  
 札幌協働福祉会アクティビティセンター施設長 丸田貴久様  
 北海道拓北養護学校 PTA 会長 永沼秀美様  
 北海道教育大学札幌校 准教授 池田千紗様  
 NPO 法人自立支援センター歩歩路副理事長 高橋くに子様
- 4 対応者 北海道拓北養護 学校長 仲條正輝  
 副校長 鴻江康人  
 教 頭 藤原裕美  
 事務長 諏訪文重  
 主幹教諭 新海真由美



【内 容】

<p>1 開会(副校長)                  2 説明(副校長)                  ※資料あり</p> <p>3 説明・提案(校長)                  ※資料あり</p>	<p>1 校長挨拶</p> <p>2 令和5年度 これまでの教育活動について～3つの“ひらく”から                  *今年度の教育活動を振り返りながら、「3つのひらく」から資料に沿って本校の教育活動について説明している。                  ・CSの目指すべき姿の芽生えはこれまでの取り組みの中にもうすでにあった。過去の取り組みを確認しながら、新しい時代に沿った取り組むべき活動を模索していく。</p> <p>〔説明内容等への質疑応答〕</p> <p>・「学校を開く」の各関係機関との連携について、本校の職員が相談事業で派遣されているのか。                  →特別支援教育体制の充実に向けて、依頼のあった小中高等へ本校のCOが派遣され、様々な相談を受けている。</p> <p>3 今後の拓北養護学校のコミュニティスクールの方向性について</p> <p>・CSについての構想を説明し、様々なご意見をいただきながら、本校の取り組みについて一緒に動き出せればと考える。                  ・本校のCSについて目指す姿についてカテゴライズし、4つの観点に基づいて考える。</p> <p>①授業の改善・充実                  →公開研究授業の実施で、地域や近隣学校等へ本校の存在意義を発信していきたい。                  教育活動における、地域資源の活用(ゲストティーチャー)を通じて本校について知ってもらいたい。本校の児童生徒が地域へ出向くことは難しいこともあるが、地域の人材を生かすことはできるはず!!</p> <p>②アフターコロナの地域連携                  →5類になったとはいえ、感染症対策について、本校はまだ備えは必要と考える。児童生徒が地域へ出てできること、またPTAの取り組みについても熟慮しながら取り組みについて模索していきたい。</p> <p>③防災体制                  →防災について危機感が低い地区ではあるが、立地的には石狩川なども近くにあり水害への備えも必要だと考える。胆振東部地震のブラックアウトも振り返ると、様々な備えと対策が必要。また全校教職員の危機意識も薄いのではと感じている。                  実際の災害時に校舎に留まるとした場合、一時的な地域の支援が必要。では、避難するとなった場合、避難場所はどこになる?教育大?あいの里高等支援学校?医療大学病院?受け入れてくれるのだろうか?避難はどうやって??</p>

4 説明・提案内容について意見  
交流



5 閉会(副校長)  
閉会の挨拶(校長)

6 次会についての確認(副校長)

避難の場合は、職員の車に児童生徒を乗せて避難することを考え、避難訓練でも実際に実施してみることも考えている。(道教委はOK 実施に向けては手続きが必要) 自衛隊への協力依頼も検討中。

③その他

→教育環境と職場環境の整備について、収納する場所などが無い。

近隣の特別支援学校(木工家のある高等支援学校)や近隣の企業にも収納棚などの作成依頼はできないだろうか?

【説明内容について熟議】

◎教育活動における地域(人的)資源の活用

・公開授業について、ほしみ学園と実際に取り組んでいる。授業と反省改善を校内研究で一緒に取り組んでおり、Zoomを活用してやりとりをしている。Zoomを活用した長期的な取り組みであれば、とても良い。地域の学校からのニーズも多いと感じている。地域の学校への公開授業も双方にとってとても有効だと思う。単発ではなく、長期的に一緒に取り組めた方が良い。過去には8名ほどの事例を元に一緒に検討していく取り組みをしていき、とてもやりがいがあった。

◎日常の教育活動でできる地域との連携

・事業所で収穫祭を久しぶりに再開した。まだ感染症対策を講じて家族限定ではあったが再開できて良かった。拓北は教育と福祉の街だと感じている。CSの取り組みから、福祉の真の意味について、拓北養護学校を発信の地といければ良い。ピアノ教室の先生など、福祉活動に熱心な方もいる。\*持参資料に沿って説明

・地域には様々な取り組みをされている方、取り組みを希望されている方もいる。学校の取り組みを日頃から知ってもらおうと、教育活動に参加してもらえる方に出会えると思う。

◎災害時の児童生徒をどうやって避難させるのか

・防災防災の観点から、保護者も来校時には名札を使用することになった。今回の説明から、やはり名札使用が大切だと感じた。改めてPTA保護者にも周知徹底していけるようにしていきたい。玄関にある来校者名簿への記名についても同様。万が一に備えて保護者とも共有し、徹底につなげていきたい。

・災害時の取り組みについて、ライフラインが利用者の在所時にストップしてしまったら・・・と考えるととても不安。災害時には、以前は清掃工場へ避難としていたが、現在は地区センター2Fの本部へ避難することになっている。被災後に各家庭に聞き取りを行い、食料3日分の確保、発電機購入、日常的に大型バスの燃料を満タンにしている。

・災害時、地域からの支援や声かけはなかったが、逆に近所に向けて非常食の配付や炊き出しを行い、地域からとのつながりや生涯のある方の理解につながったと感じている。

◎その他

・学校教職員と一緒に花火大会を開催できて本当に良かった。

・町内会としても、防災の観点からあいの里、拓北地区で月1,2ヶ月に1回の会議がある。地域の方々と共有しながら、学校での取り組みについてできることがあれば協力していきたい。

→今後、学校を開き町内の方々にも社会資源の一つとして本校を知ってもらえるように考えていきたい。まだまだ過去に取り組んでいたようにはいかないが、少しずつ開いていけるように考えていきたい。

【校長挨拶】

今後の本校のCSに向けてたくさんの気づきがあった。

授業作りについては、たくさんのやり方があると感じたし、地域との連携や防災についても様々なお話を伺うことができた。また、町内会からも今後に向けた前向きなお話をいただけて良かった。たくさん出し合った中から、少しずつでもいいので、皆さんと一緒に一歩ずつ進んでいければと思う。今後ともよろしくお願いします。

・次回については2月の開催を予定している。

